

「フランス語学習法の再検討」

高瀬英彦

フランス語を学び1年になる学生にフランス語について感想を聞くと、発音が難しい、名詞の性(男性名詞・女性名詞)が判らない、動詞の時制・活用が煩雑だと言う。フランス語自体に内在する難しさ、教科書の問題、教師の問題などが複雑に絡み合っているが、いずれも、英語学習と比較したうえでの戸惑いから来るものだろう。学習する側からの解決法は無いものか検討してみた。英語以外の外国語を学習する時、それぞれの外国語についての相応しい学習方法があるはずだとの発想である。外国語そのものの学習以前に、その外国語のもつ特質に応じた学習方法の検討・工夫が必要だろう。フランス語の場合を例にとつてのメモである。

1) 教科書の問題点

教科書選定の時期になると、うっとうしい気分になる。これといった新機軸が開かれた訳でもないのに、新版と称して沢山の教科書見本が送られてくる。(ドイツ語の場合も事情はご同様のようだ)最近の傾向としては、カラーの絵や写真が入った、絵本のようなテキストが学生に評判がよいという。視聴覚重視の観点からテープが別売だったのが、VTRが別売されるようになり、最近ではCDを抱き合わせたテキストが普通になりつつあるのが現状である。かつてのように、文字とテープのみの外国語学習に比べて、絵、写真、ビデオなどの視聴覚教材の導入は極めて有効な学習方法にちがいない。しかし、(極論すれば)教科書はなんでもいい。要は、学習者の力量を見極め、無理して詰め込まない教授者の力量によるといえる。そこから、教科書選定の基準は至極簡単。単純にして明快なものがいいということになる。あれもこれも内容が盛り沢山の教科書や、「例外」をこれ見よがしに載せているものはさける。好奇心と不安感を持って新しい外国語に向かう初学習者を脅かすのは良くない。無理強いしなくても好奇心のままにフランス語と付き合えるようにもってゆけるのがいい。英語学習のように、外国語を学べど外国語を知らず、「学べど語れず」の二の舞は踏みたくないものである。問題は教科書と言うより、教える側の姿勢の問題になる。が、学ぶ側に問題はないだろうか。

2) 英語が唯一の外国語であるとの思い込み

横文字、カタカナはすべて英語、英語といえば外国語といった認識しか日本人の頭にはないことの不思議。街で良く見かける「VIVRE」を「ビブレ」と言って英語と思い込んで人が多いが、実はフランス語の「生きる」という意味で正しくは「ヴィーヴル」だと知る人は少ない。さらに、「生きる」ために必要な身近な物を扱っている店だと思いきや思いもせず買い物にせいをだす。また、小さいころ「パン」と言っていたのに、英語を習うと、「パン」のことは「ブレッド」と直

され、「パン」はどこへ行ったと子供心に不思議に思ったことはないだろうか。フランス語を学んで「パン」が戻ってきてほっとした思いがあった。身近なところにフランス語が転がっていることに気づいていないことが多い。英語教師がそこまで教えてくれなかったせいもあるが外国語の認識が甘い文化背景、英語が幅をきかせている弊害でもある。国際フランス語教授連合（FIPF）世界大会は4年に一度持ち回りで開催されるが、第10回大会は2000年7月17日から21日までパリのPalais des Congrèsで、世界の120カ国から集まった3300人の参加者を迎えて開催された。フランス政府はフランス語教育関係の部署を大幅に変革してきていたが、今回、ジョスパン首相は、フランス語が「権力の象徴であったかつての植民地言語」から、世界的な権力言語になりつつある英語と、英語による世界の均一化に対抗する「反権力言語の一つ」になりうると主張した。レジスタンスの国、また歴史的に universalisme の国フランスが、今この危機に、その精神に戻るのも悪くない。かくして、panfrancophilisme の顕揚となるのだが、日本でも日本フランス語・フランス文学会、日本フランス語教育学会を中心に francophile 育成のための教授法の研究が盛んである。

3) 発音が難しいとの思い込み－別表(1)－参照

発音と言うとき、「発声」と「綴りの認識」に分かれる。

フランス語は英語と違って、単語ごとに個別のアクセント・イントネーションが無いのだから日本語と同じく、強勢のアクセントをつけず、ただ平板に発音すれば（韻律法については議論有り）、立派なフランス語になる。フランス語を学んで1年後の学生が発音が難しいというのはアクセント無し・イントネーション無しの戸惑いからくるもので、問題はむしろ綴り字をフランス語式に読めない点にある。音自体の難しさではない。

綴り字を音節に区切って読む作業に慣れれば問題は解決する。

字母：26文字

母音字：6文字（A E I O U Y）他に複合母音字（ai、au など...）

子音字：20文字

母音字の音は日本語のアイウエオに相当するもので、残り20文字は子音字で原則として単独で発声できない文字（右側に母音字が無いと発音できない）と考えること。（余談になるが、母音、子音の母子のイメージでのネーミングは素晴らしい。）フランス語綴りは母子家庭に相当する。例えば、カフェオレ（café au lait）は ca/fé/au/lait の4音節に切れ、caは「カ」、éはエと読むから féは「フェ」、auは「オ」と読み、aiは「エ」と読むから「レ」、語尾の子音字 t は右に母音字がないから発音できないなどと読み方のルールを当てはめれば例外以外のフランス語は意味は判らなくとも読めるという理屈になる。

cinéma、atelier、dessin についても同じ。音節切り・読み方のメカニズムを理解すれば（極論すれば）辞書なしでフランス語は読めることになる。読めれば面白くなるのがフランス語だ。そのためには、英語学習と違う母音字・子音字・音節の認識が大切であろう。

別表(1) - アルファベ・複合母音 -

アルファベ

Ⓐ B C D Ⓔ F G H Ⓛ J K L M N Ⓞ P Q R S T Ⓤ V W X Ⓨ Z

筆記体

A B C D E F G H I J K L M N O P Q
a b c d e f g h i j k l m n o p q
R S T U V W X Y Z
r s t u v w x y z

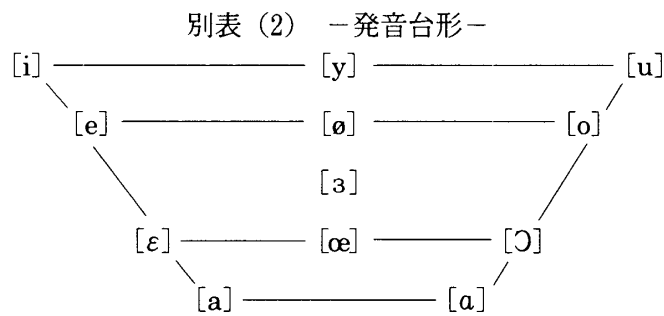
鼻母音字

a, à, â, =ア an, am, en, em, un, um =ア～ン
 i, î, y =イ in, im, ain, aim, ein, eim, yn, ym =エ～ン
 ou, où, où =ウ on, om =オ～ン
 é, è, ê, ai, ei =エ
 o, ô, au, eau =オ
 eu, oeu =ーウー
 oi =ウワ -ay- (aii) =エイ -oy- (oil) =ウワイ
 -il (l) - イヤ、イイ、イユ、イエ、イオ
 -ail (l) - ア・イヤ、ア・イイ、ア・イユ、ア・イエ、ア・イオ
 -eil (l) - エ・イヤ、エ・イイ、エ・イユ、エ・イエ、エ・イオ
 -euil (l) - ウ・イヤ、ウ・イイ、ウ・イユ、ウ・イエ、ウ・イオ

例えば Paris を読むと、英語ではパリス、フランス語ではパリと読む。何故か？ フランス語の読みのルールからすると Paris の綴りは、母子家庭的解釈からすると pa・ri・s と分解できる。母音字、子音字の理屈から第一音節は「パ」、第二音節は「リ」、第三音節「s」は子音字のため母音字の支えがなく、発音出来ないということになる。英語式の発音とフランス語式の発音のずれは「母音字と子音字の組み合わせで音節が成り立ち発声できる」との考え方の違いから生じる。

音色 - 別表(2) - 参照

母音は [ウ] に 2~3 種類の音色、[u] を鋭いユにする以外、日本語の「アイウエオ」に似ていることの認識。母音字 e に [ウ] [エ] [無音] の別があること、緊張のいる u [ユ] に注意、子音字 [r] の発声に若干の訓練 (ウガイの要領) が必要であることに注意しさえすれば上手下手は別にして、少なくともフランス語になる。



4) 音節表の大切さ・見直しの提案。-別表 (3) (4)-参照

音節表こそ、母音字の発音の単純さと子音字の組み合わせの大切さを物語っているのに最近の教科書で音節表を取り入れているのを見たことがない。

別表 (3) - 音節表 -

音節表	a	e	i	o	u	y
b	ba	be	bi	bo	bu	by
d	da	de	di	do	du	dy
f	fa	fe	fi	fo	fu	fy
j	ja	je	ji	jo	ju	jy
l	la	le	li	lo	lu	ly
m	ma	me	mi	mo	mu	my
n	na	ne	ni	no	nu	ny
p	pa	pe	pi	po	pu	py
r	ra	re	ri	ro	ru	ry
s	sa	se	si	so	su	sy
t	ta	te	ti	to	tu	ty
v	va	ve	vi	vo	vu	vy
z	za	ze	zi	zo	zu	zy

一行目は左からバ・ブ・ビ・ボ・ビュ, 二行目はダ・ドゥ・ディ・ド・デュ・ディとなる。英語の bat、bake はそれぞれ「バ」「ベイ」となるがフランス語読みすればいずれも「バ」と読み煩雑さはない。

音節の切り方の基本は母音字・子音字の組み合わせにあるが、単純に切れない場合もあるので訓練が必要になる。

cinéma は ci/né/ma、atelier は a/te/li/er、dessin は des/sin と切れるが、左から右へ、母音字・子音字を見極めながら右へ読み進むのが基本である。要するにフランス語特有の「綴り構成」に慣れる必要がある。英語の不合理性に比べればさして負担にはならないと思える。

別表(4) - 音節の切り方 -

1. 一つの子音字は後の母音字の音節にはいる。

vé-ri-té, po-é-sie, é-du-ca-tion, beau-té

2. 二つの子音字が並ぶときは原則としてその間で分ける。ただし、複子音字の ch, ph, th, gn や、子音字+l, r は（その子音字が l, r, n の場合を除き）分けない。

ac-ci-dent, ar-gent, bis-cuit, bon-né-te

a-che-ter, li-bre, li-vre, pho-to-gra-phia

tra-vail-leur, pier-re, en-le-ver

3. 三つの子音字が並ぶときは、最後の子音字が後の音節にはいる。上の2つのただし書はここでも守られる。

comp-ter, obs-cur, somp-tueux

ac-com-plir, ar-bre, per-met-tre

4. 母音字の間の y は前の音節にはいる。

cray-on, moy-en

注 意

- 1) 単語の途中で改行するときは、上記の分け目で次行に送る。そのときは上の行の音節の終わりにだけ連結線 *trait d'union* (-) をつける。ただし、母音字の間では改行せず、無強勢の e を含む音節だけを送ることは避ける。*théâtre, (ils) donnent*
- 2) 発音上の音節は、発音記号について同様に分ける。綴字上の音節と発音上の音節は一致するとはかぎらない。*bom-me* [ɔm], *pro-me-na-de* [prɔm-nad], *el-le-mê-me* [ɛ l-mɛ m]
- 3) 母音(字)で終る音節を開音節、子音(字)で終る音節を閉音節と呼ぶ。

- 5) アクセント: 単語の最後尾・文の最後尾に長音イントネーション

英語のように、単語固有のアクセント、イントネーションはない。英国人・アメリカ人がフランス語を発音するより、日本人が発音するほうが「訛り」がないといわれるのは、日本語に強勢のアクセントがないことによる。単語の最終語尾の音節(e含む音節を除く)をやや長い目に発音し、リラックスすればフランス語になる。文の読み、会話については意味に応じてのイントネーション・プロゾディー(韻律法)、山型のあがりさがりなどある。

見てきたとおり発音にルールがあり、例外以外はそのルールどおりと思えばいい。

なお「語り」についての基本姿勢は Yves Furet 氏によれば次のとおり。

- ① RELAXATION リラックスすること
- ② SILENCES 沈黙(ポーズ・合間)
- ③ RESPIRATION 呼吸(あー、えー、そのー、を言わない)
- ④ VOIX 声(甲高い声を避け、重く発音すること。内容に応じて自然に高まる)
- ⑤ DICTION 意図の明確化(語尾を明確に)
- ⑥ REGARD 目線
- ⑦ GESTURELLE ジェスチャー
- ⑧ HUMEUR ユーモア・

6) 名詞のジェンダー（男性名詞/女性名詞）・動詞（時制/活用）など一件複雑に見えるものも整理の仕方によって解消できる。

ここにフランス語の構造をうまくマスターするまとめかたを示唆してくれる見本を提示したい。英語とは違い、文法上の性別に単語を分けて分類、品詞毎にコーナーを作って分類するというやりかたである。－別表 (5)-1、-2－参照

別表 (5)-1 - モジエ・ブルー -

Revision et variétés. Leçons 1 à 4

VOCABULAIRE, PRONONCIATION

○ LEÇON 1

NOMS (名詞)			EXPRESSIONS (表現)
le garçon	la chaise	} pour les exercices de	Qu'est-ce que c'est ?
le crayon	la femme		Est-ce un ... ?
<u>le banc</u>	<u>la fille</u>	} <u>prononciation</u>	Oui, c'est un ...
le cahier	la gomme		Non, ce n'est pas un ...
l'homme	la règle	} ordre alphabétique	
le livre	la serviette		
le stylo	la table		

○ LEÇON 2

NOMS (名詞)		EXPRESSIONS (表現)
le calendrier	la lampe	Est-ce que c'est un ... ?
le gant	<u>la montre</u>	Ce sont des ...
le plancher	<u>la clé</u>	Ce ne sont pas des ...
le plafond	la cravate	
le mouchoir	la fenêtre	
<u>le mur</u>	l'horloge	
<u>le sac</u>	la plume	
	la porte	

○ LEÇON 3

NOMS (名詞)		MOTS INVARIABLES (不変化語)
l'étudiant	l'étudiante	où ?
l'oiseau	la classe	dans
le tableau		devant
le professeur		derrière
		sous
		sur
		maintenant
		voici

○ LEÇON 4

NOMS (名詞)	ADJECTIFS (形容詞)	EXPRESSIONS (表現)
la craie	blanc blanche	<i>De quelle couleur est le ... ?</i>
la robe	brun brune	
	jaune jaune	
	rouge rouge	
	bleu bleue	
	noir noire	
	gris grise	
	rose rose	
	vert verte	

Revision et variétés. Leçons 5 à 7

□ VOCABULAIRE, PRONONCIATION □

○ LEÇON 5

NOMS (名詞)		ADJECTIFS (形容詞)	
le couteau	madame	grand-grande	large (m.f.)
Monsieur	Mademoiselle	rectangulaire (m.f.)	bas-basse
		long-longue	carré-carée
		rond-ronde	épais-épaisse
		mince (m.f.)	gros-grosse
		étroit-étroite	haut-haute
		pointu-pointue	petit-petite
PRONOMS (代名詞)		EXPRESSION (表現)	
singulier	pluriel	Comment est le ... ?	
je	nous		
tu	vous		
{ il	{ ils		
{ elle	{ elles		

Verbe *être* au présent : Je suis, tu es, il est, nous sommes, vous êtes, ils son.
(動詞)

○ LEÇON 6

NOMS (名詞)	EXPRESSIONS (表現)
le chapeau	<i>Y a-t-il ... ?</i> Oui, il y a ...
le manteau	<i>Qu'y a-t-il ... ?</i> Non, il n'y a pas de ...
le bateau	<i>Combien de ... ?</i>

○ LEÇON 7

NOMS (名詞)	ADJECTIFS (形容詞)	EXPRESSION (表現)
le bois	léger-légère	<i>En quoi est le ... ?</i>
le cuir	lourd-lourde	
l'encrier		
le fer		
le papier		
le soulier		
le verre		

Verbe *être* (forme négative) : Je ne suis pas, tu n'es pas, il n'est pas, nous ne sommes pas, vous n'êtes pas, ils ne sont pas.
(動詞)

(forme interrogative) : Suis-je? es-tu? est-il? sommes-nous? êtes-vous? sont-ils?

各課ごとに「名詞の性別」「表現」「不変化語」「形容詞」「代名詞」「動詞」が視覚的に整理されている見事な例である。名詞の男女の区別も綴りの特徴で把握できることがわかる。例えば、女性名詞は綴りを見れば、eで終わっている、男性名詞はそれ以外の子音字で終わっている（勿論例外がある）ことが大まかに理解できよう。形容詞の性の一致も見やすい。

7) 名詞の先行要素（冠詞の類）の表は別表(6)に示した。（改良の余地があるとは言え）、フランス語のメカニズムを捕らえようとした好例と思う。

別表(6) - 名詞の先行要素のまとめ -

	s.		pl.	
	m.	f.	m.	f.
不定冠詞	un	une	des	
部分冠詞	du (de l')	de la (de l')	-	
定冠詞	le (l')	la (l')	les	
指示形容詞	ce (cet)	cette	ces	
所有形容詞	mon ton son	ma (mon) ta (ton) sa (son)	mes tes ses	
	notre votre leur		nos vos leurs	
疑問形容詞	quel	quelle	quels	quelles

() 内は、語頭が母音字 (または無音の h) ではじまる語の前で用いる。

s.=singulier 単数形

pl.=pluriel 複数形

m.=masculin 男性形

f.=féminin 女性形

8) 動詞の法と時制

一見複雑に見える動詞の活用も枠で囲った部分を見れば 2・1・2・1 の繰り返しであることがわかる。2 の部分は助動詞と言われる avoir、être をマスターすれば修得可能である。

未来	単純未来	Je <u>chanterai</u>	1
	前未来	J' <u>aurai chanté</u>	2
現在	現在	Je <u>chante</u>	1
	複合過去	J' <u>ai chanté</u>	2
過去	半過去	Je <u>chantais</u>	1
	大過去	J' <u>avais chanté</u>	2

要するに、フランス語学習はフランス語という言語に潜むメカニズムを理解することによって可能だと言いたい。「基本」のマスターあり、それを「利用」する工夫ありにつきる。